

[12月度例会] -ミニ講演会-

2014年12月4日(木) 18:00~20:00 於:近畿本部会議室

1. 「水処理プロセス用水質測定器について」

(株)堀場製作所 営業本部環境・プロセス営業統括室長 山口 真矢 氏

堀場製作所グループは、環境や健康、安全、エネルギーなど人々が暮らしに欠かせない分野で分析や計測機器を提供する企業である。日本、アジアを始め欧米や欧州にも研究所や工場拠点があり、グループ従業員約6,000名の内58%が外国人従業員で、公用語として英語が使用されているまさにグローバル企業である。

事業分野では5つの事業(自動車市場・環境市場・医用市場・半導体市場・科学分析市場)での独自性の高い事業を世界に展開している。

水質測定機器については、保守性を向上させた機器や、その特徴などの解説があった。また水質計を選定するに当たり、測定対象や条件に最適な仕様を有するポイントについて解説があり、特に水質計のセンサーについては、汚れが正確な測定に影響するため、洗浄装置の最適な選択と特徴や、最新機能の超音波洗浄機や、測定原理についても説明があった。

最後に、測定や分析はこれからも進化しつつ、新しい分野や測定対象への開発をしていかなければ、環境や産業発展に寄与できないので、技術士会との継続した交流での新製品開発などへ結びつけたいと述べられた。

最後に「おもしろ おかしく」というグループの社是が紹介され講演が終わった。

2. 「地域存続に向けた技術士制度の今後の在りかた」

(公社)日本技術士会 理事 近畿本部副本部長 杉本 哲雄 氏

今後の技術士制度の在り方に関し、文部科学省 科学技術・学術審議会 技術士分科会で論点整理が行われ、8つの問題や課題が整理された。これを受け技術士分科会内に「制度検討特別委員会」が設置され、現在、具体的検討がおこなわれている。これらの概要は、文部科学省のHPで公表されている。このHP等を見た際、何か意見を述べたいとする時、読むだけでは埋没してしまうと感じられたので就筆されたそうである。

委員会は継続中であるが、近畿本部という地域本部の技術士仲間から見て、「技術士制度の今後の在り方」について、地域の技術士としての意見等や見解を論文にまとめられている。要点は、「~技術士に求められる資質能力~」、「~技術士試験~」、「~総合技術監理部門~」、「~技術部門・選択科目~」、「~継続研鑽(CPD)~」、「~普及拡大・活用促進~」、「~国際的通用性~」、「~大学教育との連携~」であり、夫々について講師の見識が見事に説明された。技術士制度の改善実施が待ったなしであり、正に喫緊の課題であるということが私達にも理解できた。

(要約担当:天野武日古)